

編集後記

本誌は、情報系センターに関わる内容を扱うオリジナル論文誌で、今回で早 11 号を刊行するに至りました。原稿を寄稿された著者の皆様方、ならびに関係者各位には改めて感謝いたしたいと存じます。

原著論文審査にあたっては、編集委員の皆様をはじめ、多くの方々のご協力により実施することができました。ご多忙の中、貴重な時間を割いて、迅速に査読を行っていただいた編集委員の方々に、心からの敬意と感謝の念を表したいと存じます。

また、第 2 回情報系センター研究交流・連絡会議および第 11 回学術情報処理研究集会の運営委員・実行委員の皆様には、会議・集会の計画の策定等にあたり大変お世話になりました。深く感謝いたします。

今回掲載された論文は、法人化後の情報系センター運営の多様化を思わせるように、セキュリティ、教育、大学運営、地域貢献など広い領域に跨るものでした。セキュリティ関連の研究としては迷惑メール対策や SSH 総当たり攻撃への対策、教育関連としてはオンラインテスト、教材コンテンツ及び学習環境の研究など、大学運営関連では情報発信のデータベースシステムの開発、地域貢献関連では条件不利地域へのブロードバンド環境の整備、大学と地域が共に地域を活性化するコミュニティ形成型地域貢献などがありました。

これらの研究成果は、一般の学術論文誌の論文と同様に貴重なものであり、全国の情報系センターにおける諸問題の解決に役立つ貴重なノウハウを提供するものであるとともに、大学運営や地域貢献においては、情報系センターがイニシアチブをとって、特徴のある成果を挙げていくことが可能であることを示すものであります。情報系センターの存在意義をより確固たるものにして行くという意味においても、論文誌「学術情報処理研究」における成果の蓄積は大変貴重なものであります。今後とも全国の情報系センターが共に手を取り、交流や情報交換の機会を十分に持ち、切磋琢磨しあいながら発展していくことを願ってやみません。

本誌の構成は、原著論文 9 編（うち学術情報処理研究集会での口頭発表 8 編）、学術情報処理研究集会予稿 8 編および学術情報処理研究集会報告 1 編、巻頭言、センター紹介、議事要旨や会議の報告等を含む大変充実した内容になっております。最後にこのような素晴らしい学術情報処理誌の刊行にあたり、印刷・出版、広報など多くの業務を担当していただいた、野田先生、小林先生をはじめとする島根大学の皆様へ、心からの感謝の意を表して結びといたします。

「学術情報処理研究」
編集委員会主査 原 道宏†

「学術情報処理研究」編集委員会

主査	原 道宏 (岩手大学)	片桐 雅義 (宇都宮大学)
	高橋 謙三 (福井大学)	野田 哲夫 (島根大学)
	吉田 等明 (岩手大学)	永井 明 (宇都宮大学)
	田中 光也 (福井大学)	小林 聡 (島根大学)

† 岩手大学 〒020-8850 盛岡市上田 3 丁目 18-8 shusa@iwate-u.ac.jp